

## プロジェクトリーダー:瀬戸市立図書館

### 事業実績調書

(1) プロジェクト名	図書館連携
(2) プロジェクトの成果 (※どのような成果が得られたかについて具体的に記載)	
<p>相互貸借により、市図書館未所蔵の専門資料を利用することができた。</p> <p>ビブリオバトル開催に当たっては、学生による企画運営をすることにより、学生が地域社会に参画でき、社会貢献の場を持つことができた。</p> <p>学生委員のアクセスにより市図書館のフェイスブックのリーチ数が増大した。</p> <p>他大学の学生と交流する機会が持てた。</p>	
(3) プロジェクト実施内容 (※事業の実施方法、時期、場所、回数、市民への周知方法、参加人員等を含め、その内容を具体的に記載)	
2016年4月1日 ～ 2017年3月31日	<p>&lt;相互貸借&gt; 瀬戸市立図書館 → 大学 5冊 大学 → 瀬戸市立図書館 2冊 別紙参照 2017年1月26日現在</p>
2016年5月1日 ～ 2016年5月31日	<p>&lt;ビブリオバトル&gt; 学生運営委員の募集</p> <p>愛知工業大学2名、金城学院大学2名、名古屋学院大学2名、名古屋産業大学2名の学生運営委員決定。</p>
2016年7月7日	<p>第1回学生運営委員会 &lt;会場&gt;パーティセと 第2学習室 &lt;参加者&gt;学生5名、プロジェクトメンバー3名 &lt;協議内容&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ビブリオバトルの開催日時、会場等の決定。 2016年11月6日(日) 午後2:00～3:30 会場:瀬戸市立図書館 集会室</li> <li>・活動内容の確認。</li> <li>・視察先の決定。(椋山女学園大学図書館、名古屋市東図書館)</li> </ul>
2016年7月10日	<p>椋山女学園大学図書館(全国大学ビブリオバトル2016 地区決戦予選会) 視察 &lt;参加者&gt;学生運営委員 2名 プロジェクトメンバー 2名</p>
2016年7月30日	<p>名古屋市東図書館(東区高校生ビブリオバトル) 視察 &lt;参加者&gt;学生運営委員 4名 プロジェクトメンバー 2名</p>
2016年8月30日	<p>第2回学生運営委員会 &lt;会場&gt;瀬戸市立図書館 ボランティア室 &lt;参加者&gt;学生7名、プロジェクトメンバー3名 &lt;協議内容&gt;・チラシ原稿の最終調整 ・当日の運営方法の確認</p>

2016年10月15日	<p>第3回学生運営委員会</p> <p>&lt;会場&gt;瀬戸市立図書館、集会室</p> <p>&lt;参加者&gt;学生7名、プロジェクトメンバー1名</p> <p>&lt;協議内容&gt; ・役割分担、当日の流れ          ・その他 小道具の作成</p>
2016年11月6日	<p>ビブリオバトル開催</p> <p>1 開催時間          2016年11月6日(日) 14時～14時45分</p> <p>2 発表者・エントリー本(発表順) エントリー5名、うち1名欠場</p> <p>名古屋産業大学 環境情報ビジネス学部3年 鈴木 克吉          「少年少女飛行倶楽部」 加納朋子/著 文芸春秋</p> <p>愛知工業大学 工学部2年 所 美鈴          「都会(まち)のトム&amp;ソーヤ」 はやみねかおる/著 講談社</p> <p>名古屋学院大学 リハビリテーション学部4年 鋤柄 拓也          「君の臓腑をたべたい」 住野よる/著 双葉社</p> <p>金城学院大学 薬学部3年 小澤 優里香          「双月高校、クイズ日和」 青柳碧人/著 講談社</p> <p>参観者の投票によりチャンプ本は「双月高校、クイズ日和」となった。</p> <p>3 参 観 者                    27名</p> <p>第4回学生運営委員会(ビブリオバトル終了後)</p> <p>&lt;会場&gt;瀬戸市立図書館、集会室</p> <p>&lt;参加者&gt;学生運営委員8名、発表学生2名、大学関係者1名、プロジェクトメンバー5名</p> <p>参加学生、プロジェクトメンバーの懇親会を兼ねて、プロジェクト事業のふりかえり、反省会を開催した。</p>

(4) プロジェクトの今後の課題と展望

ビブリオバトルの開催は、来年度も継続事業として実施し、地域住民、学生の協働作業により、新たな文化活動を創出していく。

また、市内の中高生と大学生の交流が持てる場としたい。具体的には、紹介する本は中高生をターゲットとした本とするなど、参観者として、中高生に参加してもらえるよう検討したい。発表者は、これまで大学生としていたが、高校生にも参戦してもらうように市内高校に呼びかけることとし、大学生には、運営委員として、企画と当日の進行を担ってもらい、イベント後には、交流会を開催したい。